



決算特別委員会

おざわ県議は初の「決算特別委員会」委員に就任。昨年末、平成28年度の県予算、事業等に関する決算審議に臨みました。教育費、労働費、商工費、民生費を担当したおざわ県議の質疑の概要をご紹介します。

県立高校改革の推進について



昨年度から3期12年間にわたる「県立高校改革」が、

- ①質の高い教育の充実
 - ②学校経営力の向上
 - ③再編、統合等の取組み
- の3本柱で始まった。

全県を五地域に分け、各地の中学生の希望に応じられるよう、普通科や専門学科等の選択、通学利便性等に配慮。総合学科の改編では、吉田島総合高校を農業科及び生活科学科の専門学科に改編、小田原総合ビジネス高校を普通科と商業学科の併置校として改編した。

小田原総合ビジネス校の校名変更では、旧城東高校同窓会等からの強い旧校名採用要請あったが、一方の統合校、旧湯河原高校の事もあり、「県校名検討懇話会」の議を経て、**小田原東高等学校**となった。昨年度開始の長期改革を、神奈川の子どもの未来のために着実に推進するよう要望しました。

企業誘致の促進と県内中小企業の海外展開支援について

新企業誘致策「セレクト神奈川100」で一定の実績の一方、県内より流出する企業もある。本県経済のエンジンを回すため、企業誘致や中小企業の海外展開支援への一層の取組を要請しました。

エネルギー政策の推進について

「かながわスマートエネルギー計画」の全国初の薄膜太陽電池普及事業や蓄電池導入推進プロジェクトのこの3年間の成果を問い、再生可能エネルギーの導入拡大のためにも、費用対効果を考えつつ、今後の取組を強化するよう要望しました。

子ども自立生活支援センターについて

総額45億余を投じたセンターが、初の児童心理治療施設を併設して平塚市に新設された。スタッフに専門家もそろえ、県としての役割、責任をしっかりと果たせるよう、支援体制の充実と、特に警備体制には万全を期すよう求めました。

このほか、産業や社会の変化に対応した人材育成など数点について県当局の考えを質しました。

おざわ良央 県議会 一般質問傍聴バスツアー

とき・平成30年2月下旬 小田原駅西口 集合

会費・5,000円 終了後中華街において、おざわ県議を囲む報告会を開催します。

※日時は未定です。詳細はおざわ事務所へお問い合わせください。

参加者
募集!

産業労働常任委員会

9・10月

昨年度も、決算特別委員会のほか、おざわ県議はさまざまな委員会にて、県西地域選出議員としての立場も踏まえながら質疑を行いました。

6・10月

東京オリンピック・パラリンピックラグビーワールドカップ特別委員会

県観光振興計画の見直し

本県への外国人訪問客は目標数を上回るが、リピーター化が進み、全国各地へ分散化した結果、近年訪日客の本県訪問率は漸減傾向にある。多様なニーズへの対応やソフト、ハード両面からの受け入れ環境の整備推進を提言。



鉄道、バス等のフリーパス発行を

訪日外国人へのサービス強化の一環として、県内の交通共通バスの発行を提唱。

新幹線ひかり号の小田原駅停車増を!

ひかり号の増停車が実現すれば、内外の観光客の関西方面からの来県が便利になる。県西部市町と連携し、増停車運動への従来以上の県当局の関与を要請。

電気自動車の普及について

世界的に環境規制が強まる中で、EVの普及推進への県の対応の拡充を要請しました。

小田原市内の「工芸技術所」の体制強化と小田原箱根の工芸産業の支援について



県西地域活性化のためにも木工業など工芸産業の支援と若手人材の育成は急務。専門的知識を持った職員配置など「工芸技術所」の体制強化を図り、工芸産業支援への一層の充実強化を特に求めた。

このほか、県庁「国際文化観光局」新設について、「県観光客受入環境整備協議会」での整備事業と財源確保について、および「地方独立行政法人法」改正での「産業技術総合研究所」評価委員会の役割の見直しについてなど、質疑を行いました。

2019神奈川県・横浜市共催ラグビーワールドカップの準備状況について



県と横浜市との役割分担は、事業は共同企画、他市町村との連携は県が担う。小田原市は「ラグビー準備委員会」を設立し、日本代表の合宿支援やラグビー機運の盛り上げ等推進。県は他市町とも共同事業を実施し、県内強豪高校や大学とも連携する。

※2019年日本大会はアジアで初の大会。決勝戦開催地として、横浜市や県内市町村、大学、企業等と連携し、効果的なPRイベントやラグビー体験事業等も進め、万全を期すよう求めた。

2020東京大会に於ける宝くじ等の財源について

県の大会経費負担は、施設整備、行政サービス業務、機運の醸成経費の三分野だが、東京都との調整未定。宝くじ財源は、主として江の島のセーリング競技開催のためのハード整備等に使われる。

また江ノ島にある県立女性センター跡地の有効活用面では、大会後の維持運営も考え、地元ニーズを良く把握した上で、駐車場等今後の安定収入確保も考慮して取組むよう要望。

女子アスリートやジュニア選手、パラリンピアン育成について

女子はバスケットボール、サッカー、ラグビー、ソフトボール等の強化策を、ジュニア世代も、小、中、高校と一貫した指導で実績も出ている。国体新追加種目の水球、ボクシング、ビーチバレー等も強化。またパラリンピアンも20人の目標で育成中とのこと。

※この他アスリートを科学的に支える仕組みや、医学的課題等についても県の対応を問い、国や県体育協会、各競技団体と連携し支援を進めるよう要請。

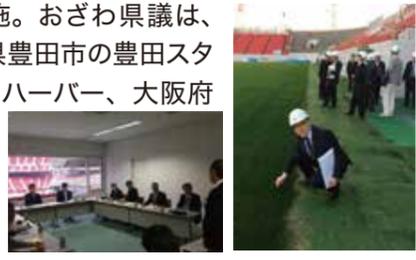
このほか、江の島のオリンピックセーリング競技への取組みや、県立女性センター跡地の利活用について、ラグビーワールドカップの機運醸成についてなどの質疑をかさねて行いました。

東京五輪セーリング大会・ラグビーワールドカップ大会

東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ特別委員会は、去る11月初旬、神奈川県内で開催されるセーリングやラグビーの施設整備と運営、その他周辺活性化への取組み等の調査を実施。おざわ県議は、国内でも有数の設備や大会実績を誇る愛知県豊田市の豊田スタジアム、蒲郡市の海陽ヨットハーバー、大阪府東大阪市の花園ラグビー場、和歌山県和歌山セーリングセンターの4カ所を現地視察した。

視察

東大阪市の花園ラグビー場、和歌山県和歌山セーリングセンターの4カ所を現地視察した。



チェジュフォーラム(韓国)

昨年6月、おざわ県議は、「平和と繁栄を目指して!チェジュフォーラム」で訪韓。韓国地方議会幹部との会談やフォーラムで有意義に友好交流を深めた。



日立跡地一部企業進出



真鶴道路越波対策工事



ミカンを食い荒らす野猿の群

県政PTopic photo 地域の課題解決に全力投球!

県西地域や小田原市が抱える人口減少や少子高齢化現象。教育、福祉、環境も問題山積で、都市基盤整備や防災対策、そしてまちの活性化等々、おざわ県議の活躍が大いに期待されている。



豊かな小田原の海を現地視察



手つかずのJT跡地



酒匂川河川敷での九都県市防災訓練



侵食著しい小田原海岸



豪雨直後の山王川